

令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 姿川第二小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 117人

② 算数 117人

5 留意事項

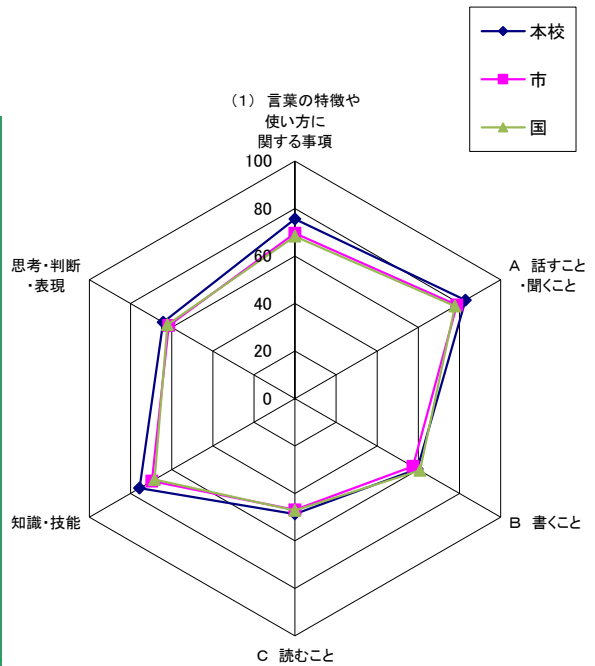
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立姿川第二小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に關する事項	75.6	69.6	68.3
	(2) 情報の扱い方に關する事項			
	(3) 我が国の言語文化に關する事項			
	A 話すこと・聞くこと	82.9	78.7	77.8
	B 書くこと	59.4	57.3	60.7
	C 読むこと	48.7	46.9	47.2
観点	知識・技能	75.6	69.6	68.3
	思考・判断・表現	64.2	61.4	62.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

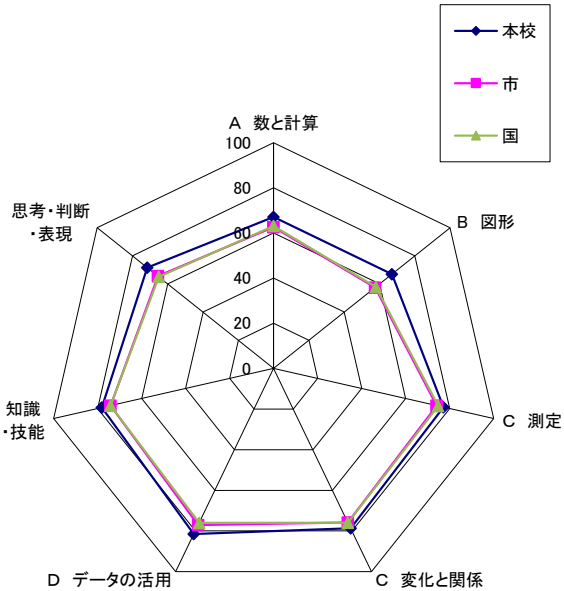
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に關する事項	平均正答率は、全国平均よりも上回っている。 ○学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことにおいては、全国平均を大きく上回るものもあり、漢字を正しく書くことは概ねできている。 ●修飾・被修飾の関係をとらえる問題では、全国平均を上回っているものの、他の設問に比べて正答率が59.8%と低く、課題が見られる。	・当該漢字や単語だけに焦点を当てるのではなく、その前後の文脈をしっかりと把握・解読し、そこから漢字や漢字の意味を推察させる習慣を身に付けさせる。 ・漢字練習だけに留まらず、日頃から学習した漢字の意味を辞典で調べたり、その漢字を使った短文を作る練習を取り入れたりすることで、慣れ親しませる。 ・文法においては、様々な文章を読みながら、主語・述語や修飾・被修飾語の関係を確認したり、読み手を意識して文章を書くことを日頃から意識させたりしていく。
A 話すこと・聞くこと	○どの設問でも、正答率は82.9%で全国の平均よりも5ポイント高くなっている。その中でも、①一の設問では全国平均よりも6ポイント上回っている。朝の会などでスピーチ発表などを継続的にを行い、話し手や聞き手になる活動を繰り返し行うなど、表現力の育成に重点的に取り組んできた成果が見られたのではないかと考えられる。 ●①二の設問では、スピーチ内で資料を使う効果を捉えられず、内容の要点を抑えられていないことによる誤答が多かった。	・今後もスピーチ等の活動を通して発表者は聞き手のことを考えながら話の内容が明確になるように筋道を立てて話せるように指導していく。また、聞き手は話し手の伝えたい意図や内容をくみ取ったり、要点をつかんだりすることができるように指導していく。 ・スピーチ等の話す活動をする際に、資料などを使いながら自分の発表内容を効果的に伝えられるように指導していく。
B 書くこと	平均正答率は、県の平均をやや上回っている。 ○目的や意図に応じて、理由を明確にしながら自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問いは、国の正答率を上回っている。また、問いに関する無回答率は全国に比べてかなり低い。 ●自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考えることに課題が見られる。	・自分の主張が明確に伝わるようにするには、文全体の構成を理解し、それぞれの構成における内容を読み取る力をつけていく活動を継続して指導していく。 ・条件に合うように文章の中から必要な言葉や文を取り上げるといった読む力の活動を充実させていく。
C 読むこと	平均正答率は、全国平均とほぼ同じであるが、他の領域と比較すると低い。また、正答率が50%に達していないので、課題があると考えられる。 ○文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握できるかを問う問題は、全国平均をやや上回っている。普段の授業から、キーワードとなる言葉を見つけ、要旨をまとめる活動を多く取り入れた成果であると考えられる。 ●目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見つけることができるかどうかを問う問題では、文章の内容については理解できているが、資料の中の文章と図表とを結び付けて、条件に合う必要な情報を見つけることに課題がある。	・初めて出合う文章に関して、目的意識をもって読み、キーワードを見つける力を伸ばせるよう、今後も指導を続けていく。 ・授業だけでなく、朝の学習等で新聞記事を活用して、書かれている内容を要約する機会を増やしていく。

宇都宮市立姿川第二小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	67.1	62.6	63.1
	B 図形	67.0	57.5	57.9
	C 測定	77.2	74.1	74.8
	C 変化と関係	78.6	75.8	75.9
	D データの活用	81.5	77.1	76.0
観点	知識・技能	78.1	74.1	74.1
	思考・判断・表現	71.7	65.6	65.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	○加法及び減法の計算が確実にでき、正しく答えることができており、県平均を7ポイント上回っている。 ○除法の意味について理解し、数量の関係に着目し、計算を日常に生かすことができています。 ○小数の学習では、ある量の何倍かを表すのに小数を用いることができる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・日常生活の問題を解決するために、具体的な場面に対応させながら、事柄や関係を式に表すことができるよう指導する。 ・自分で求めた答えや立式が問題文に適しているか、問題を解いた後に確認する習慣をつけるような指導を継続する。 ・既習事項の定着を図るために、授業内容と既習事項を関連させた問題に取り組ませる。
B 図形	○三角形の面積を求める設問の平均正答率は67.5%で、県、全国を10ポイント以上上回っている。三角形の面積の求めることに良好な状況が見られる。 ●複数の図形を組み合わせた図形について、図形の構成の仕方を捉えて、面積を求めることについて課題が見られた。	・図形を作図する活動や具体物を操作する活動を取り入れ、図形についての感覚を豊かにするとともに、図形の性質を見いだしたり説明したりする過程で数学的に考える力や表現する力を身に付けられるようにする。 ・かどの形や辺の長さなどの構成要素に着目し、それぞれの図形の特徴を言葉で説明できるような指導を図る。 ・基本的な内容の定着に向けた継続的な学習を実施するとともに、習熟度別学習を生かして、個に応じた指導の充実を図る。
C 測定	殆どの設問において平均正答率は、A、Bともに県平均・全国平均を上回っている。 ○道のりの差を求める問題、図形の面積を比べる問題ともによくできている。 ○特に、条件に合う時刻を求める問題の平均正答率が高く、91.5%の正答率となっている。	・問題解決の手順を言葉と式で表現する場を意図的に設定し、思考力・活用力・表現力の育成に努める。 ・図表や絵、グラフ、数直線などを活用させて、問題の意味を読み解いたり、立式に役立てたりする算数的活動を授業に積極的に取り入れていく。 ・時刻の求め方については、日常生活や身の回りの事象と関連させて理解させるようにする。
C 変化と関係	平均正答率は全国平均を上回っている。 ○速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察することができている。また、速さと道のりの関係について考察し、時間を求める式に表すことができています。 ●速さを求める除法の式と商の意味の理解については正答率が59.0%で全国平均を上回ってはいるが、課題が見られる。	・初めて出会う文章に関して、目的意識をもって読み、キーワードを見つける力を伸ばせるよう、今後も指導を続けていく。 ・授業だけでなく、朝の学習等で新聞記事を活用して、書かれている内容を要約する機会を増やしていく。
D データの活用	平均正答率は全国平均を上回っている。 ○棒グラフの数値や関係の読み取りができています。 ・帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述する問題について、無回答率が2.6%で全国平均を下回っている。正答率についても、全国平均を大きく上回っている。 ●全国平均を上回っているが、適切なデータを判断することには課題が見られる。	・グラフの比較や活用については、算数科以外の学習の場面においてもグラフを読む機会を数多く設け、読み取った内容について意見を交換し合う活動を取り入れる。 ・記述問題については、昨年度から学校の課題として表現力の育成に力をいれてきた成果が表れている。引き続きデータから読み取れることを自分の言葉で表現する活動の充実を図る。

宇都宮市立姿川第二小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学校に行くのは楽しいと思いますか」「自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか」「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」「友達と協力するのは楽しいと思いますか」の質問に肯定的に答えた児童の割合は、県や国の平均よりも高い。特に、「学校に行くのは楽しいと思いますか」の質問に肯定的に答えた児童の割合は、県の平均より14.1ポイント、全国の平均より19.6ポイント高く、学校の研究主題である「ともに学び、ともに育ち、ともに生きる」の研究の成果が表れていると考えられる。

○「新聞を読んでいますか」の質問に「ほぼ毎日読んでいる」と答えた児童の割合は、県の平均より1.7ポイント、国の平均より0.7ポイント高い。今後も教育活動の中や、家庭への働きかけなどで、継続して新聞を読む機会を増やしていきたい。

○「今住んでいる地域の行事に参加していますか」の質問に「当てはまらない」と答えた児童に割合は、県の平均より、7.7ポイント、国の平均より10.7ポイント低い。今後も継続して、地域と学校が連携して教育活動を行い、地域のよさに触れる機会を図っていきたい。

○5年生までの授業でのICT機器の使用は多くはなかったが、「あなたの学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか」の質問に対して「ほぼ毎日」「週1回以上」と答えた児童が76.6%で、県や全国の平均より高くなっている。1人1台端末の導入により、様々な教育活動での活用が増えたと考えられる。

○「5年生までに受けた授業は、自分のあった教え方、教材、学習時間などになっていたか」の質問では、肯定的回答が95%で、県平均より8.5ポイント高く、全国平均より13.6ポイントも高い。教室で一斉指導のほか、かがやきルームなど、児童の実態に応じた指導が行われている成果が表れている。

○「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができるか」の質問では、県や全国の平均より高く、話を聞くという意識が高い。

○「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めているか」の質問では、肯定的回答は95.8%で、県平均より17.6%高く、全国平均より22.4%高い。学級会での話し合い活動の方法を考え、学級会の機会を増やしてきた成果が表れている。

○「今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題があったが、それらの問題についてどのように解答したか」「今回の算数の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方を書く問題があったが、それらについてどのように解答したか」の質問について、「国語の問題」では無回答の児童がいなかった。「算数の問題」でも0.8%は無回答がいたものの、ほとんどの児童が問題に対して意欲的に取り組んでおり、日頃の指導の成果が表れている。

○「算数の解答時間は十分だったか」の質問では、肯定的回答が90%で、県平均より9.2ポイント高く、全国平均より8.3ポイント高い。日頃から様々な問題に触れ、考え方や解き方への理解が深まっていると考えられる。

●「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか」の質問には、全くしないと30分より少ないの回答が県や国より低く、1時間以上、2時間より少ないの回答が多く、家庭で学習する習慣が身に付いている良い傾向にあるが、2時間以上、3時間より少ないと3時間以上の回答は県や国より低い。

●「英語の勉強は好きか」の質問では、肯定的回答が66.6%で、県平均より3.4ポイント低く、全国平均より1.7ポイント低い。英語専門の教諭と協力して、読む・聞く・書く・話すことに慣れるような指導を工夫し、少しでも英語に親しみがもてるようにしていきたい。

●「新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じていたか」の質問では、不安を感じていた児童の割合は65%で、県平均より4.2ポイント上回り、全国平均より9.8ポイント上回った。日頃から勉強の大切さを感じている児童が多いことの表れではないかと考える。

宇都宮市立姿川第二小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
言語活動を意識した学習展開の工夫	・語彙力を増やすための国語・漢字辞典の積極的な活用 ・音読・短作文作り ・語彙・文法の基礎定着を図ったプリント学習 ・読書の推進	・「言語の特徴や使い方に関する事項」では、国の正答率より約7ポイント高い。その中で、修飾・被修飾の関係をとらえる問題では、全国平均を上回っているものの、他の設問に比べて正答率が59.8%と低く、課題が見られる。「書くこと」では、国の正答率をやや下回る59.4%であった。特に、自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考えることに課題が見られる。
相手意識を大切にしたい主体的な「伝え合い」活動の工夫	・授業の中で、自分の考えを文章や図などで説明したり、友達同士伝え合ったりするなど、表現する場を意図的に位置付ける。	・「話すこと・聞くこと」の正答率は82.9%で国の正答率よりも5ポイント高くなっている。児童質問紙の「自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか」「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」という質問では、肯定的回答率が国の平均より10ポイント以上上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
複数のデータを比較し、データの特徴をとらえ、表現すること	・比較したり分類したりする力の育成	・授業の中で、自分の言葉でまとめたり、感想や振り返りをまとめた文章で書いたりする場を意図的に設定する。また、大切な語句や例を挙げて書くことも意識させる。 ・調べる目的を意識し、集めた材料を比較したり分類したりする活動を重視する。また、伝えたいことを明確にしてからまとめるように指導していく。
資料の中の文章と図表とを結び付けて、条件に合う必要な情報を見つけ表現すること	・自分の考えを根拠にもとづいて説明したり書いたりする表現力の育成	・自分の言葉で書く活動や示された言葉を使いながらまとめる場を取り入れる。 ・授業の中で、自分の考えを文章や図などで説明したり、友達同士伝え合ったりするなど、表現する場を意図的に位置付ける。また、引き続きデータから読み取れることを自分の言葉で表現する活動の充実を図る。